

1. 基本的な事項

○空港の特徴

・釧路空港は北海道釧路市に立地し、空港近隣は釧路湿原国立公園と阿寒摩周国立公園となっている。空港の北側および南側に広大な法面を有しており、さらにその周囲には森林が広がっている。

・滑走路1本と旅客ターミナルビル1棟等を有し、乗降客数82万人、航空貨物2,155ト、着陸回数5,379回(2019年度)を取り扱っている。

○空港脱炭素化に向けた方針

・旅客ターミナルビル、庁舎等において、高効率空調への更新、照明、灯火のLED化等の省エネのほか、再生可能エネルギーの導入などに取り組む

2. 温室効果ガスの排出量

区分	温室効果ガス排出量[t/年]		
	2013年	現状(2019年)	
空港施設	3.5千	3.3千	
空港車両	0.1千	0.1千	
空港施設・車両 計	3.6千	3.4千	
(参考)	航空機	3.0千	3.0千
	空港アクセス	3.1千	3.7千

3. 温室効果ガスの削減目標

2030年度目標	2013年度比 46.0%削減
2050年度目標	カーボンニュートラル

4. 主な取組

- ・2030年度：ターミナルビル、庁舎及び構内道路等の照明LED化、空調設備等の高効率化による省エネや太陽光発電による再生可能エネルギーの導入。
- ・2050年度：太陽光発電設備の拡充及び蓄電池の導入を検討。



出典：(c)NIT インフラネット, Maxar Technologies.

凡例

- 空港の施設の取組み
- 空港車両の取組み
- 再エネの取組み
- 航空灯火の取組み

取組の内容及び実施箇所

その他の取組

- ・地域連携・レジリエンス : 余剰電力を活用した周辺地域の公共施設への再エネ電力の供給や、災害時の電力供給を検討
- ・意識醸成・啓発活動等 : 計画の達成状況を数値化して協議会で共有し、空港関係者及び利用者への理解促進の取組みにつなげる